

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成29年8月8日

【四半期会計期間】 第79期第1四半期（自平成29年4月1日 至平成29年6月30日）

【会社名】 ユニプレス株式会社

【英訳名】 UNIPRES CORPORATION

【代表者の役職氏名】 代表取締役 社長執行役員 吉澤 正信

【本店の所在の場所】 神奈川県横浜市港北区新横浜一丁目19番20号

【電話番号】 045(470)8631番

【事務連絡者氏名】 経理部長 斉藤 直樹

【最寄りの連絡場所】 神奈川県横浜市港北区新横浜一丁目19番20号

【電話番号】 045(470)8631番

【事務連絡者氏名】 経理部長 斉藤 直樹

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第78期 第1四半期 連結累計期間	第79期 第1四半期 連結累計期間	第78期
会計期間	自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日	自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日	自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日
売上高 (百万円)	73,628	79,951	321,168
経常利益 (百万円)	1,853	6,939	23,034
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (百万円)	446	4,116	14,379
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	4,992	4,970	1,507
純資産額 (百万円)	123,323	138,838	135,320
総資産額 (百万円)	222,988	238,637	241,052
1株当たり四半期(当期) 純利益金額 (円)	9.91	86.12	315.89
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	9.88	85.91	314.96
自己資本比率 (%)	51.5	54.2	52.5

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移につきましては、記載しておりません。  
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

#### 2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容につきまして、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社の異動は、以下のとおりであります。

(車体プレス部品事業)

新規設立：東風ユニプレスホットスタンプ会社 (持分法適用関連会社、ユニプレス(中国)会社 50%出資)

この結果、平成29年6月30日現在では、当社グループは、子会社22社及び関連会社11社により構成されることとなりました。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

#### (1) 業績の状況

当社グループの当第1四半期連結累計期間の連結業績は、売上高につきましては、円高に伴う為替影響があったものの得意先の増産影響等により799億円（前年同期比63億円増、8.6%増）となり、利益につきましては、得意先の増産影響等に加え合理化効果の積上げもあり、営業利益は62億円（同27億円増、79.0%増）となりました。経常利益は為替差益等の計上により69億円（同50億円増、274.4%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は41億円（同36億円増、821.8%増）となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

#### 日本

得意先の増産影響により、売上高は256億円（前年同期比29億円増、12.9%増）となり、セグメント利益（営業利益）は合理化効果等により17億円（同15億円増、647.6%増）となりました。

#### 米州

為替影響があったものの、売上高は268億円（同4億円増、1.6%増）となり、セグメント利益は合理化効果等により16億円（同3億円増、28.9%増）となりました。

#### 欧州

為替影響があったものの得意先の増産影響等により、売上高は97億円（同17億円増、22.5%増）となり、セグメント利益は4億円（同3億円増、362.2%増）となりました。

#### アジア

為替影響があったものの得意先の増産影響等により、売上高は177億円（同11億円増、7.1%増）となり、セグメント利益は合理化効果等により22億円（同5億円増、31.1%増）となりました。

(2) 財政状態の分析

当第1四半期連結会計期間末における総資産は、東風ユニプレスホットスタンプ会社の設立等に伴い、投資有価証券が11億円増加したものの、現金及び預金が41億円減少したこと等により、前連結会計年度末に比べ24億円減の2,386億円となりました。

負債につきましては、支払手形及び買掛金が36億円、短期借入金が13億円それぞれ減少したこと等により、前連結会計年度末に比べ59億円減の997億円となりました。

純資産につきましては、利益剰余金が28億円増加したこと等により、前連結会計年度末に比べ35億円増の1,388億円となりました。自己資本比率は、前連結会計年度末に比べ1.7ポイントプラスの54.2%となりました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間の研究開発費の総額は9億円であります。

なお、当第1四半期連結累計期間において当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	74,000,000
計	74,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成29年6月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成29年8月8日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	47,841,373	47,843,973	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数 100株
計	47,841,373	47,843,973	-	-

(注) 提出日現在発行数には、平成29年8月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は、含まれておりません。

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成29年4月1日～ 平成29年6月30日 (注)	34,000	47,841,373	22	10,062	22	10,689

(注) 新株予約権(ストック・オプション)の権利行使による増加であります。

##### (6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成29年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 5,300	-	-
	(相互保有株式) 普通株式 60,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 47,762,300	477,623	-
単元未満株式	普通株式 13,773	-	-
発行済株式総数	47,841,373	-	-
総株主の議決権	-	477,623	-

【自己株式等】

平成29年6月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) ユニプレス株式会社	神奈川県横浜市港北区 新横浜一丁目19番20号	5,300	-	5,300	0.01
(相互保有株式) 株式会社サンエス	静岡県藤枝市岡部町 岡部1200	50,000	-	50,000	0.10
カナエ工業株式会社	静岡県富士宮市 万野原新田3680-9	10,000	-	10,000	0.02
計	-	65,300	-	65,300	0.14

(注) 自己保有株式につきましては、上記のほか、株主名簿上は当社名義となっておりますが、実質的に所有していない株式が1,000株(議決権の数10個)あります。なお、当該株式数は、「発行済株式」の「完全議決権株式(その他)」欄に含まれておりません。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（平成29年4月1日から平成29年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成29年4月1日から平成29年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表につきまして、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

## 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	35,631	31,439
受取手形及び売掛金	53,859	54,282
たな卸資産	17,156	17,459
その他	11,139	10,818
貸倒引当金	0	0
流動資産合計	117,786	113,999
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	25,934	25,586
機械装置及び運搬具（純額）	50,165	50,578
土地	8,010	8,035
建設仮勘定	7,987	8,821
その他（純額）	16,009	15,450
有形固定資産合計	108,106	108,472
無形固定資産	2,632	2,553
投資その他の資産		
投資有価証券	5,274	6,434
その他	7,259	7,185
貸倒引当金	6	7
投資その他の資産合計	12,526	13,611
固定資産合計	123,265	124,637
資産合計	241,052	238,637
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	35,563	31,888
電子記録債務	3,095	2,907
短期借入金	20,626	19,260
未払法人税等	2,671	1,607
賞与引当金	2,990	1,579
その他の引当金	113	36
その他	15,809	18,267
流動負債合計	80,870	75,549
固定負債		
長期借入金	1,819	1,764
その他の引当金	335	331
退職給付に係る負債	11,928	11,612
その他	10,777	10,541
固定負債合計	24,861	24,250
負債合計	105,732	99,799



(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年6月30日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	10,039	10,062
資本剰余金	13,386	13,409
利益剰余金	118,096	120,898
自己株式	21	21
株主資本合計	141,502	144,349
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	13	24
為替換算調整勘定	5,101	5,518
退職給付に係る調整累計額	9,878	9,519
その他の包括利益累計額合計	14,993	15,062
新株予約権	78	64
非支配株主持分	8,733	9,486
純資産合計	135,320	138,838
負債純資産合計	241,052	238,637

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

	(単位：百万円)	
	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)
売上高	73,628	79,951
売上原価	64,081	67,522
売上総利益	9,547	12,429
販売費及び一般管理費	6,035	6,142
営業利益	3,512	6,286
営業外収益		
受取利息	83	176
受取配当金	12	36
為替差益	-	398
持分法による投資利益	-	126
受取賃貸料	53	72
その他	38	47
営業外収益合計	188	857
営業外費用		
支払利息	190	158
為替差損	1,336	-
持分法による投資損失	268	-
その他	51	46
営業外費用合計	1,847	204
経常利益	1,853	6,939
特別利益		
固定資産売却益	46	10
新株予約権戻入益	-	1
特別利益合計	46	12
特別損失		
固定資産処分損	17	11
その他	0	-
特別損失合計	17	11
税金等調整前四半期純利益	1,882	6,939
法人税等	1,114	2,359
四半期純利益	767	4,580
非支配株主に帰属する四半期純利益	320	463
親会社株主に帰属する四半期純利益	446	4,116

【四半期連結包括利益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)
四半期純利益	767	4,580
その他の包括利益		
其他有価証券評価差額金	109	13
為替換算調整勘定	6,251	77
退職給付に係る調整額	654	359
持分法適用会社に対する持分相当額	53	32
その他の包括利益合計	5,759	390
四半期包括利益	4,992	4,970
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	4,789	4,047
非支配株主に係る四半期包括利益	203	923

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

(持分法適用の範囲の重要な変更)

当第1四半期連結会計期間から、新たに設立した東風ユニプレスホットスタンプ会社を持分法適用の範囲に含めております。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

保証債務

金融機関からの借入金に対する債務保証

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年6月30日)
マニュエットオートモーティブブラジル	1,540	1,516
その他	55	54
計	1,595	1,570

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)
減価償却費	4,343	4,488
のれんの償却額	27	27

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年6月22日 定時株主総会	普通株式	788	17.50	平成28年3月31日	平成28年6月23日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日  
後となるもの  
該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動  
該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年6月22日 定時株主総会	普通株式	1,314	27.50	平成29年3月31日	平成29年6月23日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日  
後となるもの  
該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動  
該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	日本	米州	欧州	アジア	計		
売上高							
外部顧客への売上高	22,684	26,405	7,942	16,596	73,628	-	73,628
セグメント間の内部売上 高又は振替高	2,593	154	3	566	3,311	3,311	-
計	25,278	26,559	7,939	17,162	76,940	3,311	73,628
セグメント利益又は損失 ( )	233	1,282	104	1,704	3,324	187	3,512

(注)1. 調整額は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益又は損失( )は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第1四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	日本	米州	欧州	アジア	計		
売上高							
外部顧客への売上高	25,614	26,828	9,731	17,776	79,951	-	79,951
セグメント間の内部売上 高又は振替高	4,715	21	0	577	5,314	5,314	-
計	30,330	26,850	9,731	18,353	85,266	5,314	79,951
セグメント利益又は損失 ( )	1,742	1,652	483	2,235	6,114	171	6,286

(注)1. 調整額は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益又は損失( )は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	9.91円	86.12円
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する 四半期純利益金額(百万円)	446	4,116
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額(百万円)	446	4,116
普通株式の期中平均株式数(株)	45,050,213	47,798,121
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	9.88円	85.91円
(算定上の基礎)		
普通株式増加数(株)	141,607	117,299
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株 当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜 在株式で、前連結会計年度末から重要な変動が あったものの概要	-	-

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。



## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成29年 8 月 4 日

ユニプレス株式会社  
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 岡田 吉泰 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 中桐 光康 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているユニプレス株式会社の平成29年4月1日から平成30年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間(平成29年4月1日から平成29年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成29年4月1日から平成29年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、ユニプレス株式会社及び連結子会社の平成29年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。